

けいじばん

- 次回活動日；5月22日（日）9時40分森林館駐車場集合、主な活動メニューはシンボルツリー選定、ホテイ竹タケノコ狩り、ホテイ竹林整備など。携行品：筆記用具、あれば樹木図鑑、鋸、鉋、お椀。
- シンボルツリー実施要領；本誌3頁に添付のシンボルツリー実施要領を予めご一読下さい。
- 里山フェスティバル；第2回里山フェスティバル・里山シンポジウムの案内は「ちば里山センター」ホームページ <http://www.chiba-satoyama.net/> で閲覧可能です。インターネット閲覧出来ない会員で案内パンフレット必要な方には郵送しますので043-432-1450（真鍋）に申付け下さい。概略は県民だより5月5日号にも掲載されています。

かつどうのきろく

4月29日（金）晴 吉原洋先生と植生観察会（臨時活動日）家族含め会員14名参加

- 午前中は景観管理林・コナラ更新林・巨木林の林床植物及び樹木を手当たり次第に観察。吉原先生の名解説に聞き入り、昼食タイムを忘れて2時間半。巨木林はエビネの花盛り。
- 午後は趣向を変えキンラン・ギンラン搜索のためコナラ林を全員で探索、14人が限なく探してキンラン・ギンランとも発見出来ず、錦織会員発見の「ササバギンラン」開花前1株が唯一の成果。



(エビネ 05/04/29)



(ササバギンラン 05/04/29)



快晴の新緑、絶好の行楽観察日和に恵まれ、観察会初日は大盛況でした。

- 野鳥班高橋会員はトビの巣ヒナ観察、場所は吊橋から広場に向かう通路左崖。次頁に29日と1週間後の観察記。

4月30日（土）晴 吉原陽先生と植生観察会2日目（臨時活動日）会員4名参加

- 夢の吊り橋から対岸の植生を見ながら先生の解説始まり、広場まで植物観察。
- 続いてほこら山・倉沢山周辺の調査○午後はマダケ林・ホテイチク林調査

少人数ながら観察会には最適の人数で楽しい一日でした。観察会に参加し千年の森の植物の多様性を改めて実感（村野）昼食には吉原先生丹精のフキとタケノコの煮物、新井夫人手づくりケーキに黒豆の煮物の差入れなどご馳走様でした。

29・30日の観察植物；アズマヤマアザミ、クロモジ、ハンショウヅル、ミツバウツギ、ヤマブキ、ヤマボウシ、ハリギリ、ハナイカダ、ハルリンドウ、オニシバリ（ナツボウス）、ヒカゲスミレ、エゴノキ、コバノガマズミ、ホウチャクソウ、カマツカ、モミ、カヤ、ハンショウヅル、ネズ、オオバギボウシ、エビネ、カンアオイ、ツタウルシ、ムラサキシキブ、コムラサキシキブ、ヤブムラサキ、アマドコロ、ミヤマシキミ、エンコウカエデ、ネジキ、アセビ、ウグイスカグラ、ヤマウグイスカグラ、スノキ、コゴメウツギ、メギ、アオキ、カクレミノ、イヌマキ、カンスゲ、モミジドコロ、ヤマウルシ、オケラ、ササバギンラン、リュウノウギク、リョウブ、ウリカエデ、チゴユリ、ツクバネウツギ、ミツバアケビ、アカメガシワ、アオダモ、イタヤカエデ、キブシ、ヤマザクラ、ヤマユリ、コバノガマズミ、ムベ、オトコエシ、タチツボスミレ、ノブドウ、サルトリイバラ、スイカズラ、ガマズミ、ヤマコウバシ、ナルコユリ、ヤブレガサ、テイカカズラ、シロダモ、ウワミズザクラ、スタジイ、ミヤマナルコユリ、イヌエンジュ、ゴンズイ、ヤブニッケイ、ネズミモチ、イヌザンショウ、マルバアオダモ、ノヤマトンボソウ（オオバノトンボソウ）、アズキナシ、ヒガンナムシグサ、ナムシグサ、コ克蘭、シラキ、サカキ、ノダフジ、ウラジロガシ、モチノキ、イロハカエデ、ツルグミ、ミヤマウズラ、イヌツゲ、コウヤボウキ、ミツバツツジ、ヤマツツジ、キッコウハグマ、アオツツラフジ、イチャクソウ、コ克蘭、ヤブコウジ、マンリョウ、サイハイラン、ツガ、キハギ、クリ、ツルリンドウ、ツリバナ、*シキミ、ヤダケ等々

誤記訂正；千年の森便りNo.17、2頁「植物観察会」に記載の「ウリハダカエデ」と「ツゲ」を削除願います。

4月10日の定例活動日、昨年と同じモミの大木に「トビ」の抱卵を確認した。卵は2個。昨年も同様に抱卵していたが、その後豊英島行きの間隔が長かったため、卵の殻はあったものの、幼鳥の確認は出来なかった。今年の卵はどうなるだろうか。昨年と同じ親鳥だろうか。今年こそ巣立ちの状況を観察したいと考えていた矢先の植物観察会。植物に関心のある妻には、いつも千年の森の話をしているが実際には一度も森を案内していない。いいチャンスだ、気にしていた「卵」の様子を確認出来る。すぐに野鳥観察用のブラインドや望遠鏡など機材一式用意。そして妻を誘った。「道具が大げさ過ぎないの？」と一言あるも、29日、体調不良のため妻の運転で参加。妻はすぐに植物観察の方に参加させて頂く。私は早速ブラインドを張り、イスを持ち込み三脚にカメラをセットして観察開始。しかし崖っぷちという場所から、光の具合が良くない。我慢である。

いたいた！かわいい「ヒナ」が2羽。全身白っぽいフワフワした毛で覆われている。嘴と目が真っ黒で異様に大きい。前回の卵確認から19日目。生まれて10日前後の経過と思われる。ときどき動くのが見えるが、じっとうずくまっている。巣は小枝を巧みに組み合わせ大きなもので、モミの大木の枝の付け根にしっかりと作られている。巣の上の枝や葉で風雨を上手に防ぐ位置にある。たまたま私達が森を歩く通路の近くに、しかも地上すれすれの位置に見えるが、実はトビが飛び交う湖面側から見れば、絶壁に近い島の斜面に張り出したモミの大木の根元から約3mの位置にある。よく観察すれば、湖面からは適度な高さで進入しやすい位置にある。10m位はあろう。

巣の中は意外と汚い。紙や布切れ・手袋など色々な物が持ち込まれている。よく見ると隅の方に小魚の固まった死体もある。巣の上をハエが飛びまわっている訳が分かった。前回確認した時よりも持ち込み物が増えている。その中で二羽のヒナがピーピー鳴きながら、時々上になり、下になりするが、じっとしている時間の方が長い。二羽のヒナには個体差があり、一羽は一回り大きく元気だが、一方は殆ど動かない。奥の方で元気な相棒につつかれたりしている。生き物の世界では生まれた時から既に競争が始まっているようだ。

観察は10時半から15時まで。昼食時を除いて約4時間。その間親鳥がエサを運んで来るのが確認できたのは2度。いずれも小魚であった。2度ともエサを与えると直ぐに巣を離れる。そして上空を大きくゆったりと輪をえがきながら「ピーヒョロロ」と鳴いている。時々近くのモミの木の枝に止っては、ジッとヒナの様子を眺めているようだ。

ヒナは時々立ち上がる。そして両翼部を広げ上下に振り、ゴソゴソ歩くような動きをする。面白いのは、お尻を巣の外側に向けて後ずさりし、巣の縁から外に向けて勢いよく液状の白いフンを飛ばすことだ。こんな姿を数回見た。ホトトギスのヒナは托卵で、托卵した巣の卵をお尻（背中）と両翼部で巣から突き落とすという。親鳥が教えた訳ではないと思うのだが、これもDNAのなせる業か。

私はガダバウトチェアにもたれながら、新緑の森の中で一人静かに幸せな時間を過ごした。すぐ近くまで、野鳥たちが何度もやって来た。コガラやしぐさが堪らなく可愛かった。本日の鳥見は、シジュウカラ・コガラ・コゲラ・メジロ・ウグイス・ヒヨドリにトビ。次回は5月の連休明け頃に訪れてみよう。羽が生え出している頃だろう。楽しみだ。

植物観察に参加させていただいた妻は、初めての参加なのに皆様と一緒に楽しく観察させていただいたと喜んでおりました。ありがとうございました。（4月29日記）

（エピローグ）1週間後の5月6日、トビの巣2度目の観察、元気なヒナ2羽を確認。体がふた周り大きくなり、色も茶色をおび、顔つきも精悍になってきた。流石ワシタカ類だ。親鳥がカエルをエサに運ぶのを確認。雨が降り出すまでの3時間の観察で、エサ運びは2度。2羽の親鳥で子育て中。親の警戒がきつい。（5月6日記）

4/30植物観察会余録

新井孝男

30日吉原先生ご指導の植物調査は、とても楽しく、有意義のうちに終わりました。林床植物の調査がとても良かったです。竹を切ったりした成果があり、光がはいった森には、文字通り足の踏み場がないくらい、ランやユリの仲間など花を付けた可憐な姿をした草たちや、コナラをはじめシイ、カシ類の実生がびっしり顔を出していました。今回の調査では、コ克蘭、サイハイランが新たに確認された(?)貴重なものでした。我が家にナルコユリとかわいいユリがあり、後者を調べもせず勝手にチゴユリと思いこんでいたら今回の調査で、いずれも違い、我が家のナルコユリの方は、園芸品種のようで、チゴユリと思いこんでいたのはハウチャクソウで、現地で、チゴユリ、ナルコユリ、ミヤマナルコユリ、ハウチャクソウのすべてがみられて、吉原先生から詳しくその違いを説明いただきとても良かったです。それにしても植物は難しい。

なお、帰り際に、吉原先生から、先生自ら種を採取し、実生で育てた草花をいただきました。今では自然の山にはなかなか見かけないものです。私が預かっておりますので、ご希望の方があれば、次回活動日に持参しますので、新井電話 0439-52-2143、メール a5-taka@jcom.home.ne.jp までお申し付けください。キキョウ6本とカワラナデシコ6本、実生苗いずれも育成用小鉢に植えてあります。

シンボルツリーの選定実施要領

実施日時：平成17年5月22日（日）10時～12時

対象区域：巨木林及び周囲の景観管理林

対象面積：約1.7ha

選定数：①選定高木30本（管理番号を標示し保護・育成する）

②シンボルツリー15本（管理番号及び樹木名を標示して保護・育成し
定期的に観察・記録する）

※最終的にはha/100本程度の高木を選定する

選定方法：対象区域を3つのエリアに分けそれぞれに班を編制する。まず、各班は15本の高木（景観木を含む）
を選定し標示・記録する。

次に、全員で各エリアを巡回し先に選定された選定高木からシンボルツリー（各エリア5本、計15
本）を選定する。

各班の詳細は別紙・記録表にて説明。

【森林整備計画】

●巨木林（落葉広葉樹）区域

水源地域に位置する豊英島の公益的機能を拡充するため、ハリギリやヤマザクラなど高木性（高樹齢・深根性）
の樹種を優先して巨木林へ育成する。

（「千年の森づくり実施要領（H15.11.11 施行）」付属「千年の森づくり整備計画」より）

落葉広葉樹の巨木林は、現状を代表するコナラ林の構成種から巨木に成長した県内実績樹種をみると、ハリギ
リ、ケヤキ、ヤマザクラ、エンコウカエデ、ホオノキ、クリ、エノキなどがあり、これらが巨木で混交する状態
とみられる。

（平成15年度千葉県森林研究センター試験研究成果発表会資料「県民参加型の森づくりの試み」より）

●景観管理林（落葉広葉樹）区域

歩道の周辺の景観を整備するため、コナラ等を間引きしながら、下層に成育するミツバツツジ、ヤマボウシ、
ウワミズザクラ、マメザクラ等の花木、ガマズミ、サルナシ、ミツバアケビ等の果実を楽しめる樹種を優先して
育成する。

（「千年の森づくり実施要領（H15.11.11 施行）」付属「千年の森づくり整備計画」より）

●選定区域で確認されている要保護植物など

今回の選定区域ではミツバツツジなどの要保護植物や、アカシデ・ツガなどの一般保護植物が確認されていま
す。また、エビネ・カンアオイなどの群生も確認されています。

（主に平成15年「千年の森づくり事業報告書」による）